



拍手
オペラ「かくや姫」旭川公演。カーテンコールでは指揮者の平井秀明さん(写真中央)、や演出家の小沢乃さん(写真左)、も登場。盛大な拍手が送られた。21日

市民の舞台 熱く

絶頂

オペラ「かくや姫」は全2幕27曲。帝役の豊島雄一さんとかくや姫役の中江早希さんの歌声でクライマックスを迎える。21日



真剣

通し稽古の直前、真剣な表情で楽譜に向かい、練習を繰り返す北日本フィルハーモニー管弦楽団。20日

オペラ「かくや姫」旭川公演

2003年に東京で初演されて以来、各国で上演されてきた和製オペラ「かくや姫」(全2幕)は、道内初演となった旭川公演(旭川市大宮クリスタルホール)は、出演者と観客約1300人の約9割を市民やゆかりの人々が占める、市民参加型で行われた。原作は竹取物語。舞台装置の竹

林は、満園業者が回収した門松を譲り受けて製作した。演奏を担当する北日本フィルハーモニー管弦楽団(旭川)を主宰し、大道具も担当した熱田一夫さん(47)は「各方面の協力あつての公演。ありがたいことです。合奏やオーケストラの練習は昨年9月に始まった。本番まで2週

間を切った今月8日、初めて通し稽古を行い、演技の確認や音合わせをした。

旭川出身でイタリヤ在住の演出家小沢乃さん(44)はこの場面は足元が見えにくい、物のすそを踏まないで「芝居やかな指示を出していた。

公演当日、満席の観客が熱気あふれるオペラを堪能した。「かくや姫」の作曲・台本を手がけ、自らが指揮した東京在

住の指揮者立井秀明さん(46)は「親・子・孫の三世で楽しめるのがこの作品の魅力。クラシック音楽がより身近に感じられます。帝役を演じた旭川出身の音楽家豊島雄一さん(48)は「オペラのための」オーケストラピットがある市民文化会館で再演してみた」と満足そうに話した。

公演への道のりについて、ハイライトを紹介する。

(旭川写真課 打田達也)

名演

子役は旭川市ななかまど少年少女合唱団の団員。スポットライトを浴びて息の合った演技を見た。21日



美声

高らかにホールに歌声を響かせた旭川放送合唱団と、賛助出演の平井秀明オペラ合唱団。21日

集中

公演前日の通し稽古。楽屋では出演者らが衣装合わせに追われた。かくや姫役の演出家小沢乃さん(写真左)、や演出家の小沢乃さん(写真右)も登場。20日



奔走

大道具の竹林をつくるため、不要になった門松を集めて奔走する熱田一夫さん。満園業者の協力で十分な材料を確保できた。14日、市内川端

